

事業所名	医療法人横田会グループホーム事業所		
開催日時	令和7年11月8日		
開催場所	陽だまり2階会議室		
出席者	構成員	人数	備考
	事業所職員	5名	管理者、サービス管理責任者2名、世話人2名
	入居者	1名	
	入居者ご家族	1名	
	地域の関係者	2名	近隣タクシー会社代表 近隣商店社長
	福祉に知見を有する方	1名	別法人の精神科病院 精神保健福祉士室長
	経営に知見を有する方	0名	
	市町村担当職員	0名	
議題	1.主催者挨拶 2.出席者紹介 3.地域連携推進会議開催の趣旨について説明 4.当事業所の取り組み内容紹介（スライドを使用） 5.入居者状況の報告（スライドを使用） 6.グループホーム5ヶ所見学・感想 7.意見交換		
協議内容・意見等	1.～5. 略 6.施設訪問時の感想 地域〉安全対策がきちんとされていると思った（全GHにSECOMが入っている。家具に地震対策がしてある所） 地域〉戸建のGHはシェアハウスの感じで楽しそう。高齢者の1人暮らしに比べるとスタッフが入るので管理されていて安心して生活できると感じた。年配の人と若い人が一緒に住んでいるがトラブルはないか。主従関係はないのか。相談はあるか。 スタッフ〉部屋決めの時にマッチングは慎重に考えている。集団の難しさを感じることもあるが、月に1回それぞれのGHで入居者ミーティングも開催しており、相談は適宜受けている。 福祉専門職〉人数が多くて大変だと思うが、セキュリティが厳重なGHや自由度の高いGH・戸建のGHなどGHの選択肢があるのは羨ましいと思った。見学時に会った入居者さんが、皆さん楽しそうにされていて、「私の部屋を見ていいですよ」と言って気軽に自室を見せてくれた。 家族〉全体的にきれいで行き届いていると思った。戸建てのGHは賃貸契約か。新しい建物を作る計画はあるか。離れた所への巡回などなくなると少しでもスタッフが楽になるのではないかなと思ったから。 スタッフ〉アパートタイプの建物がよいのかなと思ってはいるが、現状では予定はない。今後の課題として、ニーズに合わせて検討していくつもり。		

7.意見交換

地域〉夜中に暴れる人はいるか。

スタッフ〉予測不能なこともあるが、病状に応じ、早めに対応している。病院とも連携をとっている。

入居者〉前にGHで事件に巻き込まれたことがあった。朝の5時頃救急車を呼んだ。6時になってからスタッフに連絡した。

スタッフ〉今の話は、同じGHの入居者が倒れて、自分の判断で救急車を呼んでくれたことがあった。入居者の持つ力を発揮してもらい、スタッフが自立を阻んでいないか、権利を奪っていないか、常日頃みんなで話し合い共有している。

家族〉入浴の順番表などは作らないのか。

スタッフ〉入院中ではないので、順番表は使用していない。女性が多いGHではそれぞれの入浴時間が長くてなかなか入れないので困るとの声もあったが、入居者同士の話し合いでルールを決め、声を掛け合うことにして以降トラブルは聞いていない。例えば、店舗でトラブルになり、お叱りを受け、職員が必ず付き添うようにといわれたこともあったが、自分で出来る事は自分でしてもらうことが重要だと考えている。

地域〉地域の店側からすると親的立場だと思われるのだろうから、どうして一人で出すんだとなる。それにはこちらが管理できるのはここまでだと説明してよいと思う。昔の精神科病院は閉鎖的だったが今の患者さんの病状は違う。理解して頂けると思う。

スタッフ〉治療も変化し続けている。確実な服薬を心がけて、安定した生活をしてもらおうと思っている。

入居者〉薬飲むのは抵抗はない。薬は効いている。安心して生活できる。

スタッフ〉服薬に抵抗がある人には効果が持続する注射などを利用されている方もいる。

地域〉個々の力の見立てが難しそうだと感じる。将来的なことも理解して一人一人に対応しないといけないのだろう。

スタッフ〉診察に同席し、服薬管理・金銭管理など一人一人オーダーメイドの対応をしている。スタッフは少人数なので情報共有をしやすいし、関わり方の方針なども伝達しやすい。

地域〉所長始め、しっかり連携してもらっているので、病院のスタッフにも理解してもらえるのだろうと思います。

家族〉スタッフの方は健康に注意して頑張ってもらいたい。